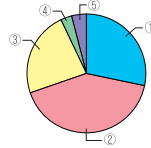


Q.18 今後電子入札が増えますが、これに対し不安な事項等がありますか何でも結構ですので記入ください。

- 意見
 - ・全てが不安。内容、方法等が分からない
 - ・出雲市など近距離の場所で入札する場合、今までより時間がかかる
 - ・発注者側のルールが明確に決められたらよい
 - ・対応社員が少数にて不在の時の対応方法について不安
 - ・入力後、間違いに気づいた場合
 - ・特になが、仕様できる人員の数を現在よりも増やしたい
 - ・事前の手続き
 - ・入札件数が多くなると、パソコンの前から1日中ではなくなるのでは
 - ・競争が激しくなるのではないかと
 - ・実行に対し、スキルがついてこない
 - ・現在、一部の機関でのみ電子入札が行われているため、入札時刻が重なることはほとんど無いが、今後県・市町村が全て電子入札に移行すれば、入札日・時刻が同じ又は近接した状態が多物件にわたる事態が生ずることになり、その対応と対処が問題になる
 - ・入札用機器の故障、入札担当者の複数確保

Q.19 「電子納品をする」とは何をしなくてはいけないことが知っていますか？

- ① 良く知っており、既に電子納品を行っている 28%
- ② 知っているが、まだ電子納品をしたことはない 42%
- ③ 名称は知っているが、何をするのかは知らない 23%
- ④ 何も知らない 3%
- ⑤ その他() 4%

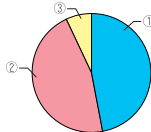


- *その他意見
 - ・電子入札の際、必要書類を電子納品している
 - ・電子納品を行っているが、良く知っているとは言えない
 - ・一部知っている
 - ・とりあえず、民間工事で納品済み

Q.20 電子納品するための基準、デジタル写真管理基準やCAD製図基準等を社員は知っていますか？

- ① 知っている 47%
- ② 知らない 46%
- ③ その他() 7%

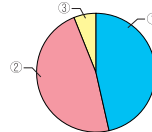
- *その他意見
 - ・一部の社員しか知らない、知っているが特定の社員、一部知っている、特定の社員のみ知っている
 - ・どちらもない、①②両方いる
 - ・全員は知らないが、国交省担当者は知っている



Q.21 デジタル写真管理基準では、画像サイズを100万画素程度としています。市販のカメラは各種あり、基準に合わせる設定が必要ですが、社員は知っていますか？

- ① 知っている 47%
- ② 知らない 47%
- ③ その他() 6%

- *その他意見
 - ・一部の社員しか知らない、特定の社員のみ知っている
 - ・どちらもない、①②両方いる
 - ・社員は知っていると思うが、納品データを全て対応しているかは不明です
 - ・全員は知らないが、国交省担当者は知っている



Q.22 電子納品に対し、不安事項・要望事項等が有れば何でも結構ですので記入下さい

- 意見
 - ・早めに移行する日程を確定してほしい
 - ・電子納品に係る労力、経費を計上して欲しい。
 - ・納品に時間、人件費が多かりそうに思われる。
 - ・電子納品のセミナーを受けたことがありません
 - ・電子納品と紙納品の二重提出。電子納品プラス印刷物の提出を要求されると、何の為の電子納品かわからない面がある。
 - ・電子納品の名称は知っているが、実際どういうふうにしていいかわからない
 - ・電子納品に対するスキルが低い。監督員の育成に時間がかかる。技術者の取扱い。未熟さの不安
 - ・全部を把握するためには、全員が同じスキルを持たないといけないが、その徹底がむずかしい
 - ・ソフト・認証カード等の選定、ソフト等を新しく用意する、資金不足がネック
 - ・常時接していないと新情報についていけなくなったり、特に年配の技術者には理解が困難
 - ・写真・文書は以前電子納品を行ったことがあるが、CAD(図面)はまだしたことがないので、分からない点が多い。CADの環境整備や人材育成等に多額の資金が必要となるため、実際に対応できるか不明である。

- *その他意見 (以下は社内の複数人の意見です。特に国土交通省工事の経験者の意見ですが、参考になるので記載しておきます。)
- ・CAD基準に合致していないデータを受領することがあり、これを請負業者側で修正している。
- ・本来のデータやとりどりにない。発注者側の意識や業務形態を見直さないといえどこれが解消できない。
- ・国の電子納品は進んでいるが、ネットワーク利用による情報共有はあまり進んでいない。
- ・業務のやりかたは以前と変わらない。業務のあり方を考えるべき。
- ・監督員のスキル差や考え方によって、電子納品の形態/内容や実地業務の情報化に大きな差がある。
- ・便利な環境をより便利に使うように考えるべき時期である。
- ・電子納品に関するマニュアルや基準があるが、事務所単位や担当職員によってやり方が違う。
- ・電子化により、業務が楽になるはずだが、実際は書類等が増え、大きな負担になっている。
- ・手書き時代のアパツな感じが良かったかと思うこともある。

Q.23 会社のパソコンがウイルスに感染したことがありますか？

- ① ある 44%
- ② ない 51%
- ③ わからない 5%

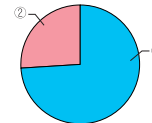


Q.24 会社のセキュリティ対策について何か不安や質問等がありますか？自由に記入ください。

- *その他意見
 - ・ウイルスバスターを入れているのだが、それだけでは不安。
 - ・Beetを導入している為、不安はありません。
 - ・社員のスキル。全員がウイルスに対して関心が低いこと。
 - ・ウイルス対策ソフト(最新版)未購入のため今後のことが不安。
 - ・全社対応でセキュリティ対策を行っており、不安は特に感じませんが、末端での情報のやりとり、メディアを介したやりとりまで見えない。
 - ・実態に対策がとれているのか不安になることがある。
 - ・基本的に現状では問題ない。

Q.25 協会のホームページを開いて見たことがありますか？

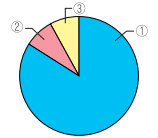
- ① ある 74%
- ② ない 26%



Q.26 協会からのお知らせや行事予定等を会員専用のホームページ上で公開した場合、利用されますか？

- ① 利用する 84%
- ② 利用しない(必要ない) 8%
- ③ その他() 8%

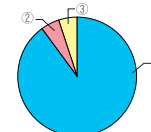
- *その他意見
 - ・利用はするがメールでの連絡等があれば確認しやすい
 - ・利用は十分可能だが、1日あたりの閲覧の頻度はかなり低いかもしれない
 - ・ホームページを定期的に確認するの、大変
 - ・メールが良い、毎日見ないのでしたらメールで送信してもらいたい



Q.27 協会活動の一環として、技術力向上を目指す技術情報等を会員専用のホームページで公開した場合、利用されますか？

- ① 利用する 90%
- ② 利用しない(必要ない) 5%
- ③ その他() 5%

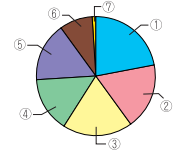
- *その他意見
 - ・技術力は各社の独自のセールスポイントでも有り、情報公開には制約が生ずる。
 - ・事前にメールでお知らせを流してもらえば積極的に利用する
 - ・その時にならないとわからない



Q.28 前問で利用すると答えられた方、提供するとしたら、どんな情報がほしいですか？

- ① 入札関係情報 22%
- ② 技術情報 18%
- ③ 様式集 19%
- ④ 安全情報 15%
- ⑤ 施工計画事例 16%
- ⑥ IT関連のQ&A 9%
- ⑦ その他() 1%

- *その他意見
 - ・各種助成金や融資制度等の特に金融情報



Q.29 日常業務におけるITに関する疑問点、当協会に対するITに関する意見や要望事項等何かありましたら、何でも結構ですので記入ください。

例:電子納品や技術研修のセミナー開催、サポート等

- *その他意見
 - ・電子納品、入札、IT(建設業に必要なもの、CADなど)関連のセミナーを開いてほしい
 - ・技術研修
 - ・サポート
 - ・研修、講習会など参加しやすい時期に開催してほしい。4~9月頃
 - ・ホームページをどんどん更新してほしい
 - ・研修会等の情報
 - ・市町村とも電子入札時期を合わせてほしい
 - ・インターネットバンキングに関心があるが、セキュリティ面が不安。会員の中でどれくらい利用してらっしゃるのか、また今後利用するのが興味があります
 - ・特にありませんが、島根県、出雲市のITの進み具合を常に把握しておかれる必要があると思います。
 - ・施工計画事例、安全情報、様式集等が見られると便利だと思います。
 - ・連絡、通知等はメールを利用してほしい
 - ・国交省では仕様書、図面が電子媒体で提供される。県に於いても早く実施して頂きます様、協会として県に要望してほしい
 - ・今年度より入札参加願を中止しましたので、今のところ、必要なく思っています



それ(今)IT化!・君(e施工管理)はET化!

土木委員会委員長
梅野 治彦

～アンケート結果を受けて～

電子入札については、各社対応は考えていらっしゃいます。その後に来るE施工管理・パソコンの活用と後に続く電子納品についても考えてみませんか? マクロとミクロの考え方がありますが、マクロ的には今後の方向としてIT化はどんどん進み、我々の周りに入り込んで来ることは間違いない事実です。

国家の方針としてのIT化は止まる事無く進むことが予想されます。そうなったら、そうなって、考えればいいということかもしれませんが、現在でも各会社間の格差は大きなものがあります。例えば、現場の情報管理IT化の進んだ会社、会計処理など事務の管理業務の進んだ会社、CAD等の図面処理や(三次元処理・カラー映像処理コンピュータグラフィック)など、やがて当たり前の世界が来るものと思われまますが、全社がそれを使いこなすには(個人差を超えて)慣れという時間を必要とします。

もちろん、能力差は実存しますので直ぐに対応できる人材はいますが、IT化は、社内全体が人間の神経の機能のように使いこなさねば省力化、合理化、効率化は望めません。

我々は自分のスタンスをよく確認し、最先端、ほどほど早い、まあまあ、ずれてる。などの情報をきちんと知る必要があります。その為の勉強は必要なことだと考えます。

勉強はいやなものです。努力というものを必要とします、明日が見えればやる 見えなければやらない? 明日は努力して見つけて、やってみて実感するものです。

現実になって対応することは、意外に難しいものです。ドロナワといますが。準備の大切さとともに勉強という本来の意味・強く強いるツヨクシイル・ことが今必要かもしれないと思います。今後の方向としては建設のIT化 形式知のIT化暗黙知の特化がこれからの企業間競争の勝敗を決します。

業務の電子化、一見難しそうな作業をしているように見え、私なんか無理?大丈夫、誰でもコツコツと積み重ねて現在の姿あり。今から一步一步、やっつけていきませんか!

e 施工管理とは、ITの活用による新しい施工管理を、呼びます。
ET Engineer Technologyとか Embedded Technologyなど。
IT Information Technology

「ぜんざい」は出雲が発祥!!

出雲弁(ずーずー弁)が訛って
「じんざい」が「ずんざい」、さらには「ぜんざい」に...



ぜんざいは、出雲地方の「神在(じんざい)もち」に起因すると言う説があります。

出雲地方では旧暦の10月に全国から神々が集まり、このとき出雲大社では「神在祭(かみありさい)」と呼ばれる行事が執り行われています。そのお祭りの折に振る舞われたのが「神在(じんざい)もち」です。その「じんざい」が、出雲弁で訛って「ずんざい」さらには「ぜんざい」と言うようになったと伝えられています。

また、出雲大社の南に位置する神西(じんざい)地区では、神西の地名は、大国主命の嫡妻である「すせり姫」の生誕の地として神妻(じんざい)とも呼び、神西は古くから「じんざい(小豆を煮て餅を入れた汁)」を食していたことから、「ぜんざい」発祥の地とも言われています。



▲大国主命とすせり姫のロマンス神話の郷 神西湖

10月31日 「出雲ぜんざいの日」 日本記念日協会登録決定!!

出雲の自然・歴史・もの・営み資源の 組み合わせを生かした地域ブランド

出雲観光協会は、10月31日を「出雲ぜんざいの日」とする申請を日本記念日協会に提出し、4月の同協会による審査会で記念日として登録されることが決定しました。

記念日の申請にあたっては、今年2月に「日本ぜんざい学会」を立ち上げ、その手続きを進め、これまで「神迎えイベント」や「くにびきマラソン」(写真左)などで観光客や出場選手にぜんざいを振る舞ってきました。

今後は、出雲の自然・歴史・もの・営み資源の組み合わせを秘めた「出雲ぜんざい」を出雲を代表する出雲ブランドとして全国発信を展開します。



～「ぜんざい」発祥の地 出雲～

このことは、祇園物語にも「出雲国に神在もちひと申事あり」、「赤豆をにて一餅(もち)を入りまいらせ」と記されており、現在のぜんざいと同種の料理であったことを示す記述があります。